

座標: 北緯38度49分52.8秒 東経121度17分9.3秒

ウィキペディア

東鶏冠山北堡壘

出典: フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』

東鶏冠山北堡壘（とうけいかんざんきたほるい、簡体字: 东鸡冠山北堡垒）は、中国大連市旅順口区の東鶏冠山（海拔**119m**）にある帝政ロシアが日本軍の防御の為に建設した堡壘であり、日露戦争の激戦地である。

目次

構造

戦闘

概要

脚注

関連項目



東鶏冠山北堡壘の題字

構造

帝政ロシアは1898年に旅順を租借し、旅順の東側の半永久的な防御線として1900年に中国人労働者を使役して堡壘を建設した。堡壘は周囲496メートル、面積9900平方メートルの不規則な五角形で、天然の岩にコンクリートと石、そして泥土で覆って造られた。内部の構造は複雑で、司令部、兵舎、弾薬庫、治療室、台所などの周りに胸牆、側防害室が配置された。堡壘の周囲は堀があり、堀の外の斜面には高压電流が流れる鉄条網が架設されていた。



側防害室の日本軍の爆破跡

戦闘

日露戦争において、1904年8月21日の第1回旅順総攻撃の際に日本軍第11師団（四国兵团）による堡壘の攻略が始まった。第11師団は鉄条網の突破に成功して内堀に入ったが、土砂に覆われた側防害室からの近接攻撃により大損害を受けた。その後、数度に渡って坑道を掘り、堡壘の爆破を試みた。12月15日には日本軍が発射した28センチ榴弾砲弾が命中し、守備隊の指揮官コンドラチェンコ少将が戦死した。その後、12月18日に堡壘の正面で2.3トンのダイナマイトを爆破させ、これに乗じて占領した。日本軍は、この堡壘を突破するために約8,000人の死者を出した。



コンドラチェンコ戦死の地記念碑。揮毫は鮫島重雄による[1]

概要

旅順日露戦争陳列館が併設されている。

脚注

- ↑ 現地案内板より

関連項目

- 旅順攻囲戦
- 歩兵第22連隊
- 肉弾（戦記：桜井忠温著）

「<https://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=東鷄冠山北堡壘&oldid=69478675>」から取得

最終更新 2018年8月5日 (日) 14:29（日時は個人設定で未設定ならばUTC）。

テキストはクリエイティブ・コモンズ 表示-継承ライセンスの下で利用可能です。追加の条件が適用される場合があります。詳細は利用規約を参照してください。